

施策・主な取組シート

基本方向	(4) まちのにぎわい・活力づくり	基本政策	3) 観光の振興
(1) 施策			
名称	2 5 観光の振興		
目標	本市が有する自然や歴史文化等の魅力ある観光資源を活用した観光客誘致を行うことで、まちの賑わいを創出するとともに、DMOと連携した観光地域づくりをめざします。また、関係機関と連携し、市内へのMICE誘致を行います。		
現状と課題	本市は、東京湾アクアラインでつながる「房総の新たな玄関口」として恵まれた立地状況にあり、成田空港・羽田空港からのアクセス性も良いことから、国内外から観光客が訪れています。里山・里海の豊かな自然環境や古くから伝わる歴史文化等の豊富な観光資源も点在していますが、大型商業施設の開業により、沿岸部へ観光客が集中し、市内全域への効率的な誘客ができていない状況にあります。 また、観光の魅力を高めるための受入体制が弱く、市内事業者による意思統一を図っていく必要があるため、平成30年4月に設立された木更津版DMO（一般社団法人木更津市観光協会）と積極的に連携した観光客の回遊性向上策の展開や受入体制の強化が求められています。 さらに、国際会議の開催件数が伸び悩むなか、効果的なMICE誘致活動の実施が課題となっています。		
課題解決の方向性	木更津版DMOと連携し、観光需要に対応した提供コンテンツの磨き上げ、組み合わせによる観光商品を開発するとともに、季節に応じた旬な観光情報を発信し、観光客の回遊性を高めます。 また、市内事業者を対象とした研修会や意見交換会を実施し、国内外から訪れる観光客の受入基盤の強化に取り組めます。 さらに、ちば国際コンベンションビューロー等の関係機関と連携し、多くのMICE（マイス）誘致を行います。		
(2) 主な取組			
No.1	名称	観光客の回遊策の充実	
	担当課	観光振興課	
	概要	・本市に訪れた観光客に対して、旬な観光情報や飲食店情報を掲載した「週末木更津計画」を季節ごとに配布し、大型商業施設など誘客力がある施設から市内各所への観光客の回遊を推進します。 ・「木更津バル」、「木更津ナチュラルバル」、「冬花火」、「パークベイ・フェスティバル」など、様々なイベントを通じて、中心市街地周辺への集客を図ります。 ・道の駅を拠点としたレンタサイクルを通じて、里山地区の魅力発信・開発に努めます。	
No.2	名称	観光客受入体制の整備	
	担当課	観光振興課	
	概要	・木更津版DMOと連携し、観光客のニーズに沿った、きめ細かい着地型ツアー商品の開発に取り組めます。 ・観光客の受入体制を向上させるため、観光事業者を対象とした観光おもてなしセミナーの開催や意見交換の場を提供します。 ・民泊などの新たな観光需要に対応した体制づくりを推進します。 ・国内外の商談会等への参加により、官民一体となったプロモーション活動を展開し、外国からの観光ツアーを誘致します。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、木更津版DMOと連携し、多言語による観光情報の発信に努めます。	

No.3	名称	国際会議等のM I C E 誘致		
	担当課	企画課		
	概要	・日本政府観光局やちば国際コンベンションビューロー、かずさアカデミアパーク等と連携しつつ、補助金交付などの開催支援により、国際会議等のM I C E の誘致を推進します。 ・国際会議観光都市として、コンベンション施設や宿泊施設と連携し、会議運営を支援します。		
施策目標の実現に関する指標	指標	現状値 (H30)	目標値 (H34)	設定の考え方
	観光パンフレット掲載のクーポン利用率	4.6% (平成29年度)	10.00%	回遊してもらうきっかけとして動機になりやすい飲食店に訪れてもらうことを目的としている。 パンフレットのキックオフイベントの内容を見直し、参加店と連携して魅力を発信し、クーポンの利用率10%を目指すため、年間1.35%ずつ利用率を増加させる。
	観光おもてなしセミナー参加団体数	0	15団体	現状このようなセミナーの開催はないが、市内事業者の受入意識の統一性を図るため定期的に開催する。 年間5団体ずつ増やしていき、参加団体が増えてきたら、意見交換の場を設けてインバウンド客にどのような対応しているか等の情報共有を図る機会を創出する。
	国際会議の件数	3件 (2018年の件数)	8件 (2019～2022年の累計)	毎年2件の国際会議を開催する。